

教育臨床心理実践センターだより

教育臨床心理実践センター発行
2012年1月発行 第3号

1. 平成23年心理教育相談室活動報告について

表1 平成23年相談件数

	23年
実相談件数	78
のべ相談件数	671

表2 平成23年来談者

	幼児	小学生	中学生	高校生	大学生	社会人・保護者	計
実相談件数	0	9	6	2	1	60	78
のべ相談件数	0	79	23	17	17	535	671

表3 平成23年相談内容

	不登校	いじめ	非行・しつけ	学業不振	進路・適性	発達の遅れ	対人関係	行動・性格・情緒	その他	計
実相談件数	15	2	3	2	2	5	17	24	8	78
のべ相談件数	128	18	34	17	12	90	138	196	38	671

2. 附属学校での心理学コース大学院生による相談活動（院生相談員）について

教育臨床心理実践センターでは、ニーズのある附属学校（桃山地区の桃山小学校、桃山中学校、京都地区の京都小中学校中・高等部）を対象に、心理学コースの大学院生を「院生相談員」として派遣しています。週1回（1回半日）程度、教育臨床心理学を専攻する大学院生が、それぞれの担当する附属学校を交代で訪れ、児童生徒の心理社会的な適応の促進を目的にした活動を行っています。



京都小中学校の中等部にあるカウンセリング室について紹介します。ここには、ソファやぬいぐるみがあつてくつろげるスペースと、絵を描いたり宿題をしたりできる机といすのあるスペースがあり、その間のついたてには子どもたちが描いてくれた魚たち(写真)が貼ってあります。相談員は週に2回在室しており、休み時間や放課後には、子どもたちが絵を描いたり相談員とお話したり、お昼ごはんを一緒に食べたりして、自由に過ごすことのできる空間です。少し

ひとりになりたいときやほっとしたいときなどにも利用できます。些細な悩みでも相談できて、気軽に來ることのできるような、身近に感じられる相談室づくりに努めています。

桃山小学校の相談室について紹介します。私たちは、週に一回「海の部屋」相談員として活動しています。活動内容としては、何か悩みや困ったことがある児童の相談に乗ったり、給食を一緒に食べたり授業を見学したりなど相談活動に限らず幅広く活動しています。また、月に1回お便りも発行しています。先生方とも情報の共有をし、連携を図っています。相談室には、子どもたちがくつろげるようあやとりや折り紙などを置いており、過ごしやすい空間をつくるよう心がけています。給食や授業時間には、児童に名前を覚えて貰えるよう積極的に関わっています。



桃山中学校の相談室について紹介します。私たちは、子どもたちに向けて毎月「心の相談室だより」を発行し、週2回の訪問日をお知らせするとともに、相談員からのメッセージをお伝えしています。昼休みから放課後までの時間帯に、保健室や相談室で子どもたちとお話したり、総合学習や学校行事に参加させて頂いたりもしています。相談室には折り紙や将棋、トランプなどの他、癒しの音楽やアロマを用意し、カーペット上に直接座れるスペースを設けるなど、子どもたちがリラックスできる空間作りに努めています。

お知らせ

教育臨床心理実践センター主催ワークショップ「映画と精神医学」
映画を題材に精神医学的観点から今日の教育的課題を考えます。
日時・場所：2012年2月23日(木)15時～17時 教授スキル実習室
中村道彦先生（メンタルクリニックラッコリン院長，本学名誉教授）

心理教育相談室について

- ▲ 個人・家族・学校などの悩みや困った問題について心理的援助を行っています。まずは電話にて、お気軽にご連絡ください。075-644-8824（月曜～金曜、午前10時～午後4時）
- ▲ 心理教育相談室では、平成25年3月末まで、東日本大震災に直接関連する相談は、無料で行っております。

編集後記

ニューズレター第3号では、平成23年心理教育相談室活動報告、ならびに附属学校での心理学コース大学院生による相談活動（院生相談員）報告をいたしました。今後とも教育臨床心理実践センターをどうぞよろしくお願ひいたします（花田里欧子）。